

AIAA ICSSC'21におけるコロキウムセッションの開催

- Satellite Internet, Latest Technologies, Systems and Services -

平成15年4月にパシフィコ横浜で開催されたAIAA ICSSC'21では、4月16日(水)からの本会議開催に先立って、15日(火)にコロキウムが開催された。今回のコロキウムは”Satellite Internet: Latest Technologies, Systems and Services”と題され、衛星インターネットに関する最新情報が各国の専門家から紹介された。

基調講演を含めてトータル8件の講演が行われた。それぞれ質疑応答を含めて1時間近くの講演であり、朝から夕方までの丸一日のセッションは相当長丁場であったが、非常に中身の濃いプレゼンテーションおよび質疑応答が行われた。本コロキウムのPRの言葉としてプログラムには「Through this one-day colloquium, latest trends of satellite internet can easily be understood.」と記載されていたが、その記述に誤りはなく、この一日のセッションに参加することにより、現在の衛星インターネットの最新トレンドに関する情報を網羅することができるものであった。以下、講演の順を追って内容を概説する。

まず、米国ジョージワシントン州大のヘルム教授による基調講演が行われた。各講演者および聴衆に対して、本コロキウムでどのようなディスカッションをするべきかを示す/問うものであった。

基調講演に引き続く技術的な講演はConnexion by BoeingのEd Laase氏のプレゼンテーションから開始された。Laase氏は、航空機内乗客へのインターネット接続サービスの重要性を述べるとともに、同様のサービスを提供するInmarsat(L-bandを使用)と比較しながらより高い周波数帯(Ku-band等)を用いて高速サービスを提供することによりビット単価の低減が可能であることを示した。

続く三菱電機の水野氏からの講演は、Inmarsat、Connexion by Boeingを含む航空機へのインターネット接続サービスに関する各種技術を網羅的に説明した。さらに、衛星インターネットサービスにおけるIPv6やQoSを実現する技術にも言及した。

昼食後を挟んで、ドイツDLS社のHolzbock氏の講演は、DLR社における衛星インターネットに関する各種研究開発の結果を示すとともに、ABATE、WirelessCabin、SUITED、FIFTHなどの欧州衛星インターネット関連プロジェクトを紹介した。

CRL門脇氏は、日本の超高速衛星インターネットプロジェクトWINDSについて紹介するとともに、同衛星において実現される衛星オンボードATMスイッチングの技術と優位性を詳細に説明した。

続く奈良先端科学技術大学院大学の山口教授の講演は、衛星システムそのものではなく、広域への通信を比較的簡易に提供可能な衛星システムの特長をインターネットに活かすことを目指したものであ

った。アジアの発展途上国を含めて、研究開発のネットワークを衛星を用いて構築することにより、国レベルの「デジタルデバイド」の解消の一助となると述べた。

SCC葛城氏は、ビジネス的にはCDNのような大容量ファイルを広範囲な対象に送信する場合に衛星を用いたインターネットの強みが発揮されると述べ、同社の関連するサービスを紹介した。また、同社が数年来進めている学校向け衛星インターネットプロジェクトを紹介した。

最後の講演はSES GlobalのAshford氏によって行われた。同氏は現状を分析し、衛星インターネットビジネスを取り巻く環境は厳しいが必ずしも希望がない訳ではないとの結論を披露した。企業向けブロードバンドサービスや双方向TVなど、衛星の特長を活かした幾つかのサービスをその例として挙げた。さらにそれを実現可能とする幾つかの技術について説明した。

充実したプレゼンテーション内容に対して聴講者の知識欲もかきたたられ、質疑応答は非常に活発なディスカッションセッションとなった。規定時間だけでは議論が収まらず、プレゼン後のオフラインでの意見交換もあちらこちらで見られた。

本会議開催の数ヶ月前には戦争による講演者の不参加・参加者数の低下が予想され、それに対してコロキアムの実行委員会は各種対策を講じて体制を整えていた。しかしながら、会議直前に東アジアを中心として世界的に流行したSARS(重症急性呼吸器症候群)の影響がより大きく、今回のコロキアムへの参加者数は前回1998年の日本開催に比べて低下していた。しかし講演者は一人の欠席もなく、また、そのような厳しい環境にも関わらずかなりの聴衆を集めており、成功裏に終了したと言える。



ヘルム教授による基調講演



Ed Laase氏 (Connexion by Boeing)による講演の様子



ブレイク時の様子

以上